

# 英語商品名の言語文化的諸相

田中 芳文・竹中 裕貴\*

## 概 要

アメリカ英語における商品名とその特殊な用例をいくつか取り上げ、品詞転換や意味変化といった言語学的特徴、さらには他の語と複合的に用いられることで新たな表現として派生していることを明らかにした。同時に、それらの言語変化を可能にしているアメリカ文化という背景の存在を指摘し、言語と文化の関わりについての研究が重要であることを具体的に示した。

キーワード：商品名, 固有名詞, アメリカ英語, アメリカ文化, 言語と文化

## I. 序論—商品名の言語文化的研究

商品名の研究が、英語という言語とその背景にある文化を明らかにしていく上で非常に重要であることは、すでに具体的な研究の中で明らかにしてきた(*cf.* 山田・田中 1998)。すなわち、商品名を研究することで、その形態論的、または意味論的な側面はもちろん、それらが使用される文化的背景まで解き明かしていくことができるし、またその必要があると示されてきたのである(*cf.* Clankie 2002; Langendonck 2007)。同時に、そのような研究の不足が、翻訳をはじめとする英語の理解の大きな妨げとなることが問題として指摘されている(*cf.* 山田 2003; 田中 2003)。より具体的に言えば、商品名の研究がいかなる形のものであれ、言語学的な観点である書記形式(orthography)、音韻特性(phonetics)、形態構造(morphology)、意味特性(semantics)に注目し、それぞれについて調査を行うことはもちろん、商品名がその文化の中でどのような意味を持つのかを知らなければ、それは本当の意味での理解とはならず、結果として多くの問題を招くのである(山田 2005)。特に本稿で注目するアメリカ英語とその文化では、田中(2006)で言語使用域(register)という観点から議

\*広島大学大学院総合科学研究科

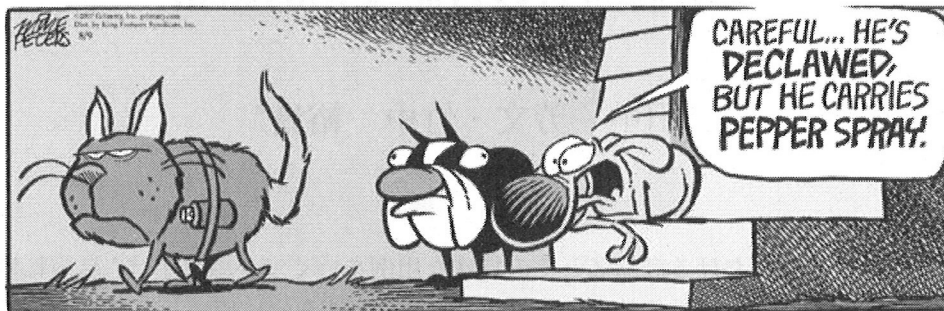
論したように、その研究において日々あらゆる場面で商品名に遭遇するが、それらが日常的な、なじみのあるものから、そうでない、例えば医療に関わるような専門的なものまで幅広くなってきている。そのことが商品名に反映される言語文化的背景をより複雑にしているのである。さらに、商品名には、他とは異なる制約、すなわち法律や、自らの権利を守ろうとする企業による運動の圧力も加わり、アメリカ文化の中での振る舞いを一層特殊なものにしているのである。<sup>1)</sup>したがって、その研究においては、必然的により柔軟な言語文化的視点からの考察が求められるのである。

そこで、以上のことを考慮しつつ、本稿では引き続き商品名と、それに関連する固有名詞を取り上げ、その言語文化的諸相を明らかにし、アメリカ英語・文化をより正確に理解する方法を示すことにする。

## II. 本 論

### 1. Mace

図1の漫画は、爪をとる手術をした猫が、“pepper spray”を携帯し身を守ろうというのであるが、特に護身用にこのような道具が普及しているアメリカ社会を映し出し、猫までそれを携帯しているということが興味深く描かれている。漫画の猫が携帯している“pepper spray”と



(<http://www.grimmy.com/>)

図1 漫画の中の pepper spray

は種類が異なるが、古くから護身用スプレーとして普及してきた商品と言えばまず“Mace”であった。商品名“Mace”には、はやくから品詞転換 (conversion) の現象が見られ、Day-GloやXeroxと同様にその動詞としての用法について論争があった (cf. Clankie 1999)。

好ましくないものであると認識され、図2のように広告を用いた運動まで展開されていた。普通名詞や品詞転換を経た動詞としての用法が一般的になれば、商標が商標として一般に認識されなくなるところか、法律による保護を受けられなくなると危惧し、このような活動を頻繁に行っていたわけである。

Please Help Us Protect Our Trademark.

**mace**  
BRAND

is a registered trademark for a unique "brand" of self-defense spray. When using the Mace name in text it is important that you remember to "capitalize" the M, follow with a registration mark ® and the word "brand", because protecting our name is important to us. That's why we placed this ad in *Editor & Publisher*...



(Clankie 1999, p. 255)

図2 Mace の広告

発売当初は“Chemical Mace”として米国Massachusetts州のSmith & Wesson(Lear Siegler, Inc. の一部門)製の、強力な催涙ガス用神経麻酔剤液(現在はMace Security Internationalの商標)として携帯ボンベ入りで売り出され普及したものであり、その後、動詞としての用法を持つようになった(山田 1990)。しかし、このような動詞としての用法は、企業側にとっては

### 1) 実際の用例

上記のような企業努力にも関わらず、結局のところ“Mace”は以下に示す様々な用法がすでに辞書に収録されている。

noun [mass noun] trademark an irritant chemical used in an aerosol to disable attackers.  
verb [also mace] (with obj.) spray (someone) with Mace.

(OED2, s.v. Mace)

また、実際の用例には次のものが見られた(以下、引用文中の下線は全て筆者による)。

まず(1)は、抗議デモを鎮圧するために“Mace”が使用されたことを伝えるCNNの記事である。

(1) Some marchers said police used pepper spray against the demonstrators. Police said 11 officers were “Maced in the face” by protesters.

(<http://www.cnn.com/2003/US/03/22/sprj.irq.protests/>)

(2)の *Washingtonpost.com* の報道は, “pepper spray” などを使用して学生を取り押さえた警察官の行為が行き過ぎたものであった可能性を示唆した記事である。

(2) “He’s being kicked in the face and maced at the same time,” she said.

(<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2006/10/13/AR2006101301449.html>)

また(3)は, 9.11のテロが起こる直前, ミサイル防衛に力を注ぐことを考えていた Condoleezza Rice 現国務長官が行うはずであったスピーチの一部を *Washingtonpost.com* が伝えたものである。

(3) “[But] why put deadbolt locks on your doors and stock up on cans of mace and then decide to leave your windows open?”

(<http://www.washingtonpost.com/ac2/wp-dyn/A40697-2004Mar31?language=printer>)

## 2) 動詞としての“Mace”とその一般化

以上から“Mace”は動詞として, すなわちすでに *OED 2* や山田(1990)で指摘されているような意味での動詞として定着していることが(1)から分かる。そして(2)では, 特定の商品とは関係のなく「催涙スプレーを使用する」という意味で使用されていることが確認できる。また(3)では, “mace”と綴られ, “cans of”と共起する形で不可算名詞として一般化していることが分かる。

以上のような商品名の品詞転換には, 結局のところそれを阻もうとする企業努力の影響は見られず, 結果として無駄となってしまうのである。<sup>2)</sup> 英語商品名に限らず, それを使用する人々の文化の中で, 言語は常に変化を遂げており, それを妨げることはできないという証左であろう。

## 2. Mr. Clean

特にアメリカの政治の舞台で耳にする表現に, “Mr. Clean”がある。元々は, 米国 Ohio州の

The Procter & Gamble Co.製の多目的洗剤 (all-purpose cleaner)の商品名であり, 「米口語で, 誠実で良心的な人物(特に政治家)」を示す表現として使用されていた(山田 1990)。また, 図3のように, すでに洗剤だけでなく, その他多くの種類の商品に“Mr. Clean”のイメージを載せて販売している。<sup>3)</sup>



(<http://www.mrclean.com/>)

図3 Mr. Cleanを使った商品 (Mr.Clean Power Multi-Surface Wipes)

### 1) Mr. Clean の用法

実際には, 次のようにそれぞれ特徴的なものがある。

まず(1)では, 共和党のJohn McCain上院議員について *Washingtonpost.com* が以下のように書いている。

(1) If the Republicans’ ethics problems worsen, McCain’s Mr. Clean image will look ever more attractive to Republican members of Congress desperate to hold power.

(<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/06/13/AR2005061301461.html>)

NBAのバスケットボールプレイヤーである Kobe Bryant の起こした事件についての記事の冒頭は, 次のようになっている。

(2) Kobe Bryant’s “Mr. Clean” image may be permanently stained.

(<http://abcnews.go.com/US/Sports/story?id=90477&page=1>)

イギリスの下院議員、Martin Bellが自身の選挙資金の問題について釈明をしているという(3)のBBCの記事は以下のタイトルで報じている。

(3) Parliament's 'Mr Clean' defends himself  
(<http://news.bbc.co.uk/2/hi/uk/politics/49890.stm>)

(4)では、中国において胡錦濤が国家主席に就任しようとしていることを伝えるCNN.comの記事である。

(4) Li's enemies were rooting for Shandong party secretary Wu Guanzheng, a 'Mr Clean' who is close to Hu despite not being a member of the latter's Communist Youth League (CYL) Faction.  
(<http://edition.cnn.com/2002/WORLD/asiapcf/east/11/18/willy.column/index.htm>)

## 2) 用例の言語的特徴

以上の用例から、“Mr. Clean”の用法として次のものがあげられる。まず、(1)のように、政治家について典型的に“Mr. Clean”としてそのまま使用される場合もあるが、(2)のように政治家ではなく、清潔なイメージを持ってさえいれば、バスケットプレイヤーのようなスポーツ選手にも問題なく使用できる表現であるということである。また、(3)のように、イギリスのメディアであるはずのBBCにもその用例が確認できることから、すでにアメリカ英語とし

て限定されていないことも分かる。最後に、(4)に見られるように、この表現が定着し、“Mr. Clean”が一つの名詞であると捉えられることで、商品名の語形成(word formation)の段階ですでに“Mr”という敬称(title)が付加されているにも関わらず、そこに冠詞を付加し、“a Mr. Clean”と表現することを可能にしている。

以上のような用法も、いずれにせよその背景にある商品名と、その清潔感あふれる写真のキャラクター“Mr. Clean”の存在を知らなければ、この表現がアメリカ文化の中で持つ意味を正確には理解できないであろう。

## 3. Nicorette のような patch

図4を見ると、流行の“patch”を使用してタバコを止めると話している犬のRalphがいるが、それを聞いたGrimmが「君はタバコを吸ったことがないだろう」とすかさず言う。そこでRalphは、それを「次の“AA Meeting”で話してみることにするよ」と言っている。

この漫画を正確に理解するには、“patch”と“AA”という会(meeting)がどのようなものであるか理解していなければならない。これらについては山田・田中(2000)が詳しく、その手がかりとなる。まず禁煙用の“patch”は、“nicotine patch”としてその詳しい説明があり、“nicotine transdermal [delivery] system”(ニコチン経皮膚吸収システム)のことであり、「一日に一回貼ればよい」とある。<sup>4)</sup> 現在では禁煙のみならずダイエット用のものなど多くの種類“patch”が発売されている。<sup>5)</sup>

MOTHER Goose & Grimm by MIKE PETERS

08/27/07



(<http://www.grimmy.com/>)

図4 patch が登場する漫画 (1)

“AA”は、“Alcoholic Anonymous”(アルコール依存者[中毒者]更正会)の頭字語(acronym)である。「飲酒を止めようとする人なら誰でも入会できる」とあり、匿名が約束されており、会費などはない。米国とカナダを中心に約200万人の会員がおり、約980,000の団体が加盟している(山田・田中 2000)。

以上から漫画の意味が理解できる。すなわち、Ralphは現在アメリカで注目され誰もが試している禁煙のための“patch”を、通例一日に一回で良いところを複数、それも体中に貼り、なおかつ、自らがタバコを吸わないことを指摘されると、今度はそのことを所属しているアルコール依存者[中毒者]更正会で話してみると言っているのである。“patch”などの商品はもちろん、アメリカの社会問題である喫煙やアルコール依存症などの知識を要求される非常に難しい漫画である。

#### 4. Kool-Aid

商品名が色を修飾する形で固形容詞(proper adjective)として使用されることがあり、胃薬の“Pepto-Bismol”が“Pepto-Bismol pink”という形で使用されることがある(竹中 2006, 田中 2007, 山田 2006)。商品名が特定の色と強く連想されることで、色彩語(color term)と共に用いられるわけだが、ここで見る“Kool-Aid”もその一例である。

##### 1) Kool-Aid Purple

(1)の *Washingtonpost.com* の記事はデザイナー達の作り出す独特の色について記述した部分である。

(1) Goth designers Feisty Diva and Nyla are creating Goth outfits in the full spectrum of neon-bright colors, ranging from Electric Kool-Aid Purple to Attic Insulation Pink.

(<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2007/01/22/AR2007012201448.html>)

また、(2)はビジネス用の服の色について述べたものである。

(2) What other businesspersons wear lime-green, sky blue, or Kool-aid purple suits?

(<http://spokesman-recorder.com/news/article/article.asp?NewsID=80828&sID=16&ItemSource=L>)

##### 2) 色彩語と商品名の関係

以上のように“Kool-Aid”が“purple”という色彩語と共に使用される理由を明らかにするためには、“Kool-Aid”という商品名と、それに付随する文化的背景を知らなければならない。まず、“Kool-Aid”がどのような商品であるかは山田(1990)が既に詳しく取り上げており、即席清涼飲料粉末(instant soft drink mix)であることがすぐ分かるし、竹中(2007)では人民寺院(People's Temple)の信者による大量自殺に関わる表現(drink the Kool-Aid)について論じてある。そして、なぜ特に“purple”という色彩語と共に用いられているかと言えば、実際に紫色の、グレーブ味の“Kool-Aid”が存在しているからである。しかし、何種類もの色(味)がある中で、この“purple”が人々の印象に強く残り、“Kool-Aid purple”として使用されているのには他に理由がある。それは上で述べた人民寺院の事件で使用されたと言われているものと同一であるからである。山田(2006)には、当時の事件を報じた記事として次の(3)が引用されている。

(3) They drunk cynide mixed with grape *Kool Aid* [*sic*] from a communal wash tub.

— *Chicago Tribune*, Nov. 22, 1978

したがって、アメリカ文化の中で起こった惨事が、“Kool-Aid”と特定の色(purple)との連想を強くした結果、このような表現が生まれたのであり、商品名の言語現象が、その背景に文化を背負っているという証でもある。

##### 5. 企業名の言語変化：Enron

以上のように商品名は、アメリカ文化の中で人々に与える様々な影響が強くなり、特定のイメージなどと強く連想されることで、本来意図されなかった意味を獲得していく。このような現象は、商品名以外の企業名などの固有名詞に

も起こり得る。

例えば、“Enron”は、周知の通り、アメリカ史上最大の負債を抱え倒産した企業として有名となったが、このようなアメリカ社会の中での出来事を背景とした新たな用法が生まれている。

### 1) 動詞となった社名の表現

(1)の記事は、Fabian Nunez によるアメリカ民主党ラジオ演説の一部である。

(1) That's why Democrats are committed not to allow our state to be “Enroned” again.

([http://www.californiaprogressreport.com/2006/05/speaker\\_blasts.html](http://www.californiaprogressreport.com/2006/05/speaker_blasts.html))

次の(2)では“Enron”が品詞転換によって、他動詞として使用されるようになったきっかけには政治的な背景があることが示唆されている。

(2) On the other hand, it's very clear at this point that the Democrats are trying to turn Enron into a transitive verb, in much the same way the Lewinsky scandal turned “mentor” into a transitive verb. And they're going around saying how the Republicans want to Enron America, and we're all going to be Enroned and so forth.

(<http://transcripts.cnn.com/TRANSCRIPTS/0201/27/le.00.html>)

また、(3)と(4)では、“Enron”と同じような危機が再び起こるのではないかと危惧した記事である。

(3) An Enron-Like Scandal Threatens to Erupt at Halliburton, Where Dick Cheney Was Chief Executive

(<http://www.democracynow.org/article.pl?sid=03/04/07/0259240>)

(4) “There could be other Enron-like situations out there,” says Arthur Levitt, the activist former SEC chairman.

(<http://www.cnn.com/ALLPOLITICS/time/2002/01/28/know.html>)

### 2) “Enron”の意味と背景

以上の例から、企業名であったはずの“Enron”が、動詞または形容詞“Enron-like”として、特に口語で使用されていることが分かる。ではそれらは一体どのような意味で用いられているのであろうか。上記でも述べたように、“Enron”という社名は、ひどい負債を抱え、多くの人々を巻き込んで倒産したことがまず連想(association)される固有名詞であり、それぞれの表現の意味も、自ずとその背景に関連したものになっている。新語や俗語に詳しいUrban Dictionary(<http://www.urbandictionary.com/>)にはその定義が記載されており、参考になる。

A radical redistribution of wealth, usually from poor to rich. Trickle up theory.

(s.v. enron)

To be victimized or wronged by the company or boss you work for. The term originated from Enron, a Texas company that collapsed due to corporate scandal leaving thousands of investors and employees in financial ruin.

(s.v. Enroned)

すなわち、(1)と(2)では「不正を行う」、「搾取する」、時には「騙す」というような複数の意味が“Enron”という一つの動詞としての用法に込められていると考えられる。さらに(3)と(4)では“Enron-Like”(Enronのような)で、「“Enron”の史上最悪の倒産のようにひどい」という意味で使用されている。

いずれの場合でも、特に事件の起きたアメリカ文化の中でこの表現を使用することで、“Enron”倒産に関わるあらゆるネガティブな側面を聞き手に連想させることができる表現であるが、このような文化的背景を知らなければ、この用法は意味を持たないものになってしまうのである。

### Ⅲ. 結 論

商品名が、品詞転換のような言語変化を起こしたり、また独特のアメリカ文化を反映した意味や表現の派生を日々生み出したりしている現象を具体的に指摘した。商品名の言語変化を制限しようとする動きがある中で、このような言語の変化が起こるのは、言語が文化と深く結びついていることの表れである。今後も商品名の研究を通じて、言語と文化の関係を明らかにしていく必要がある。

#### 【注】

- 1) 商標が消失することは“genericide”と呼ばれ、企業が商品名の言語変化を制限しようとする要因である(Clankie 2000)。
- 2) ただし、全ての企業が商品名の言語変化に反対しているというわけではなく、例えばYahoo!は、自ら“Do you Yahoo!?”のようなキャッチフレーズを用いることで、知名度を上げることがを意図した活動をしている。
- 3) この他にも、“Mr”を使用した商品名は“Mr. Goodbar”や“Mr. Killing”など数多く、語形成力の強いことが伺える(cf. 山田 1990)。
- 4) また、山田・田中(2000)は、同じような禁煙のための効果が得られる類似商品として、“Nicoerette”という禁煙抑止剤(smoking deterrent)を収録した。「米国では、喫煙に関連した死亡は毎年50万件以上(すべての死亡者の16%)」という数字からも、問題の深刻さと、

MOTHER GOOSE & GRIMM by MIKE PETERS

05/21/05



(<http://www.grimmy.com/>)

図6 patch が登場する漫画 (2)

この商品が注目される理由が分かる。

- 5) 図5のような商品がダイエット用の“patch”として確認できる。(http://www.supersaver-meds.com/fix-o-fat/)



図5 Fix-O-Fat Patch

また竹中(2005)では、種類の多い“patch”を面白可笑しく描写した図6のような漫画の解説を行った。

#### 参 考 文 献

- Oxford Dictionary of English*, 2nd ed, Revised, New York, Oxford University Press, 2005. [OED2]
- Clankie, Shawn M.(1999): Brand Name Use in Creative Writing, Perspectives on Plagiarism and Intellectual Property in a Postmodern World, New York, the State University of New York Press.
- Clankie, Shawn M.(2000): Genericization: A Theory of Semantic Broadening in the Market Place, the Northern Review 28, retrieved

- December 10, 2006, from <http://eric.ed.gov/ERICWebPortal/content-delivery/servlet/ERICServlet?accno=ED442282>
- Clankie, Shawn M.(2002): A Theory of Generi-cization on Brand Name Change, Studies on Onomastics, Vol. 6, Ceredigion, Wales, the Edwin Mellen Press.
- Langendonck, Willy Van(2007): Theory and Typology of Proper Names, Trends in Linguistics, Studies and Monographs, Vol. 168, Berlin, New York, Mouton de Gruyter.
- 竹中裕貴(2005): 英語表現の中に見る商品名, 英語の言語と文化研究, (9), 45-56.
- 竹中裕貴(2007): 商品名に見るアメリカ英語と背景文化, 時事英語学研究, (46), 79-92.
- 田中芳文(2003): 英語固有名詞の意味と文化, 英語の言語と文化研究, (1), 27-42.
- 田中芳文(2006): *CSI*の中のアメリカ英語表現と文化, 英語の言語と文化研究, (8), 21-35.
- 田中芳文(2007): 現代アメリカ英語の医療語を追って(3), 英語の言語と文化研究, (9), 21-35.
- 山田政美(1990): 英和商品名辞典, 研究社.
- 山田政美(2003): 辞書には何が欠落しているか, 英語の言語と文化研究, (1), 53-70.
- 山田政美(2005): 英語の言語と文化12講(英語の言語と文化研究論叢第8巻), 英語の言語と文化研究会.
- 山田政美・田中芳文(1998): 固有名詞と現代アメリカ文化, 島根大学教育学部紀要(人文・社会科学編), 32, 67-77.
- 山田政美・田中芳文(2000): 英語メディカル用語辞典, 講談社インターナショナル.
- bbc.co.uk/2/hi/uk/politics/49890.stm
- California Progress Report  
Retrieved September 1,2007,from [http://www.californiaprogressreport.com/2006/05/speaker\\_blasts.html](http://www.californiaprogressreport.com/2006/05/speaker_blasts.html)
- CNN.com  
Retrieved August 24,2007,from <http://transcripts.cnn.com/TRANSCRIPTS/0201/27/1e.00.html>  
Retrieved September 1,2007,from <http://www.cnn.com/ALLPOLITICS/time/2002/01/28/know.html>  
Retrieved September 1,2007,from <http://www.cnn.com/2003/US/03/22/sprj.irq.protests/>  
Retrieved August 20,2007,from <http://edition.cnn.com/2002/WORLD/asiapcf/east/11/18/willy.column/index.html>
- Democracy Now!  
Retrieved September 5,2007,from <http://www.democracynow.org/article.pl?sid=03/04/07/0259240>
- Fix-O-Patch  
Retrieved August 29,2007,from <http://www.supersavermeds.com/fix-o-fat/>
- Mr. Clean  
Retrieved August 30,2007,from [http://www.mrclean.com/sites/en\\_US/mrclean/products/wipes.shtml](http://www.mrclean.com/sites/en_US/mrclean/products/wipes.shtml)
- Spokesman-Recorder  
Retrieved August 26,2007,from [spokesman-recorder.com/news/article/article.asp?NewsID=80828&SID=16&ItemSource=L](http://spokesman-recorder.com/news/article/article.asp?NewsID=80828&SID=16&ItemSource=L)
- Urban Dictionary  
Retrieved September 1,2007,from <http://www.urbandictionary.com/>
- Washingtonpost.com  
Retrieved September 5,2007,from <http://w.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2006/10/13/AR2006101301449.html>  
Retrieved September 3,2007,from <http://w.washingtonpost.com/ac2/wp-dyn/A40697-2004Mar31?language=printer>  
Retrieved September 3,2007,from <http://>
- ### インターネット資料
- ABCNEWS  
Retrieved August 5,2007,from <http://abcnews.go.com/US/Sports/story?id=90477&page=1>
- BBC  
Retrieved August 7,2007,from <http://news.>



英語商品名の言語文化的諸相

w.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/06/13/AR2005061301461.html  
Retrieved September 3,2007,from http://

w.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2007/01/22/AR2007012201448.html

田中 芳文・竹中 裕貴

## Linguistic and Cultural Aspects of English Brand Names

Yoshifumi TANAKA and Yuki TAKENAKA\*

Key Words and Phrases: brand names, proper nouns, American English, American culture, language and culture

---

\*Hiroshima University, Graduate School of Integrated Arts and Sciences.